様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年　６月１４日現在

機関番号：３２６６４
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：２００８～２０１１
課題番号：20720060
研究課題名（和文）菊亭家とその蔵書に関する研究

研究課題名（英文）
A study of the Kikutei family and the collection of books

研究代表者
田中　幸江（TANAKA　Yukie）
二松学舎大学　文学部　非常勤講師
研究者番号：30445720

研究成果の概要（和文）：　本研究は、「菊亭文庫」の歴史を、菊亭家歴代当主の事跡に着目しつつ明らかにしようとしたものである。調査・研究の結果、第21代当主今出川実種（1754～1801）が、蔵書を分類・整理し、目録や副本を作成、さらには数多くの文書・典籍（主に記録類）を執筆していたことが分かった。彼が整理・作成した文書・典籍類は、現在の「菊亭文庫」に受け継がれている。「菊亭文庫」が今の形で遺るのも決して偶然ではなく、彼の功績によるところが大きいのである。本研究によって、実種こそが、江戸期までの菊亭家歴代当主２４名の中で、「菊亭文庫」の形成と発展に大きく寄与した人物であったことが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：　In this study, I attempted to elucidate the history of Kikutei collection from the perspective that there is a close relationship between the book collection and the owner. Results of the survey, Imadegawa Sanetane (1754-1801) was classify the book collection, organize, and prepare the inventory. He was also transcribing old books, and wrote a new book of many of the Kikutei collection. He was the person who contributed greatly to the formation and development of the Kikutei collection.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２００９年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２０１０年度	500,000	150,000	650,000
２０１１年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：書誌学・文献学・目録学・菊亭・今出川・文庫・蔵書・公家文化

１．研究開始当初の背景

昨今、学界において天皇家の蔵書「禁裏文庫」や「公家文庫」の研究が盛んに行われている。しかし、一つの公家文庫の歴史を通史的に、具体的に把握する試みはなかったばかりか、蔵書と所有者との有機的繋がりについて着目するという視点も今までなかった。本研究は、「菊亭文庫」の歴史の解明にとどま

るものではなく、それに関わる他の公家の文庫や、「禁裏文庫」の研究の進展にも寄与するものであり、ひいては中世近世における公家文化の一端を解明する、意義ある研究と言える。

また、従来「菊亭文庫」中には貴重な資料が存することから、個別研究が盛んに行われてきたが、群資料として捉え、評価する試みはなされてこなかった。菊亭家旧蔵資料を蔵する京都大学やケンブリッジ大学における昨今の「菊亭文庫」調査・研究の状況を見ても、「菊亭文庫」（菊亭家旧蔵書）の全体像を把握するための研究基盤が整いつつあり、全体像を明らかにしようという気運が高まってきていると言える。「菊亭文庫」の歴史を明らかにしようという本研究は、こうした内外の学界の状況からみても、待望されているものと言えよう。

２．研究の目的

菊亭家は琵琶を家業とした音楽の家であると同時に、朝廷の儀式において重要な位置を占めた清華家の一つでもあり、その蔵書の様相を明らかにすることは、日本音楽史研究、歴史学研究において重要な意味を持つ。しかし、「菊亭文庫」として現在伝わる史料が菊亭家にどのように集積されていったのか、各時代の文庫の様相はいかなるものであったのか、詳細は未だ解明されていない。本研究は、現在では文庫から流出してしまった史料も含め、菊亭家旧蔵書の全体像を把握した上で、菊亭家歴代当主の事跡に着目し、誰による集書がどの程度行われ、どの程度現在まで遺っているか、さらには蔵書の活用、整理や修補の実態も含めて、「菊亭文庫」の歴史を明らかにするものである。

３．研究の方法

(1)現存する菊亭家当主の日記を調査する。

(2)菊亭家旧蔵書を調査する（探索・調書をとる）。

(3)菊亭家歴代当主の書蹟を収集し、リスト化する）。

(4)蔵書印を分類・整理する。

(5)採訪調査で収集した、菊亭家旧蔵書の書誌事項の整理を行い、菊亭家歴代当主の手になる書物をリスト化するとともに、蔵書印についても整理・分類する。

(6)菊亭家が天皇家の蔵書「禁裏文庫」中の楽器・楽書の管理に関与していた可能性があることから、「禁裏文庫」の楽器・楽書目録についての調査・研究を行う。

(7)菊亭家の菩提寺の調査を行う。

４．研究成果

(1)京都大学附属図書館・専修大学図書館・東京国立博物館のほか、各地の図書館・文庫の目録をもとに菊亭家旧蔵書の探索、採訪調査を行った。そこで、菊亭家歴代当主の手になる書物、筆跡・花押、蔵書印の収集を行うとともに、江戸期の「菊亭文庫」の古目録『〔菊亭文庫蔵書目録〕』に記載される書物と、現存する書物との同定作業（比較対照表の作成）を行った。その結果、『〔菊亭文庫蔵書目録〕』に記載される９１１点の書物のうち、約半数については所在を確認することができたほか、記載以外の書物についても調書をとることができた。さらに、書物の表紙に付された外題や補記に、第 21 代当主今出川実種（1754～1801）の筆跡が多く認められることも明らかとなった。

調査で得られた情報は、非公開ながらリスト化しており、冊子媒体だけではなく、電子媒体も視野に、公開に向けて今後努力していきたいと考えている。

(2)菊亭家歴代当主の日記の所蔵状況、残存状況を調査したが、その過程で、第 21 代当主今出川実種（1754～1801）が、先代の当主の日記の副本を作成していたことが分かった。実種が『〔菊亭文庫蔵書目録〕』を作成したことは今までの研究で明らかにしていたが、(1)で述べたように、菊亭家の蔵書の表紙に実種の筆跡が多く認められることも合わせて考えると、実種が蔵書の分類・整理を行い、目録を作成するとともに、重要な書物については副本を作成していたことになる。江戸時代中後期における菊亭家の蔵書整理の一端が具体的に明らかとなったのである。実種は、蔵書を守るだけでなく、蔵書の実態を把握し、積極的に活用するとともに、有用な状態で次世代へと引き継ぐことが当主としての責務であり、「蔵書」の有効活用と継承が、「菊亭家」の存在意義であると考えたのだろう。実種は、歴代当主の日記および様々な史料の書写本だけでなく、自らが物した記録等、現在「菊亭文庫」として伝わる数多くの文書・典籍も遺している。こうした功績から、実種こそが江戸期までの菊亭家歴代当主２４名の中で「菊亭文庫」の形成と発展に大きく寄与した人物、「菊亭家の蔵書」を考える上でのキーパーソンとなることが明らかとなったのである。

この成果については、口頭発表するとともに、雑誌『専修国文』において誌上発表した。

実種の日記をもとに、事跡をさらに明らかにすることで、「蔵書と所有者との有機的繋がり」について、より明確になると考えている。

(3)第14代菊亭家当主今出川公規(1638～97)の日記『公規公記』について伝本の調査を行い、「基礎的研究」を行った。なかでも、専修大学図書館蔵の『公規公記』は、それまで存在が確認されていなかった伝本であるが、他の伝本では欠落している万治４年（1661）１月１５日の内裏炎上、天皇家の蔵書「禁裏文庫」罹災の記事を有していることでも注目された。専大本の１月１５日条には、「禁裏文庫」中の楽器・楽書の名前が列挙されているが、その記載内容が、上野学園大学日本音楽史研究所蔵『禁裏御文庫楽書并御楽器之目録』や京都大学附属図書館蔵『〔禁裡楽器并諸譜目録〕』と大いに関連することが分かり、公規が近世前期の「禁裏文庫」、なかでも楽器・楽書の管理に関与していた可能性が高いことが明らかとなった。この成果は「菊亭文庫」研究にとどまらず、「禁裏文庫」研究にも寄与するものであると考えている。

この成果については、論文にまとめ、平成２２年度（2010）に入稿済みであるが、論集刊行の大幅な遅延のため、未発表になっている。

(4)菊亭家の菩提寺（京都・上善寺、三宝寺）において、墓石の調査を行い、当主の墓の所在について確認することができた。歴代当主の日記の内容と、こうした情報を重ね合わせることで、さらに個々の人物の事跡が明らかになると考えている。今後の課題としたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

田中幸江、「上野学園大学日本音楽史研究所蔵『禁裏御文庫楽書并御楽器之目録』について」、平成１８～２０年度科学研究費補助金（基盤研究(Ｂ)）「中世後期禁裏本の復元的研究」研究成果報告書、査読無、2009年、97～114頁。

田中幸江、「江戸期の菊亭家当主の日記『公規公記』について―今出川実種による蔵書整理と書写活動―」、『専修国文』、査読有、９０号、2012年、23～47頁。

〔学会発表〕（計１件）

田中幸江、「江戸期の菊亭家当主今出川実種による蔵書整理と活用―『公規公記』を中心に―」、日本学術振興会・科学研究費補助金（基盤研究(Ｂ)）「古典籍の書写と書写環境の相関性に関する総合的研究」（代表者・武井和人）第５回研究会《古典籍をめぐる諸問題》、2011年8月26日、埼玉大学・東京ステーションカレッジ。

６．研究組織
(1)研究代表者
田中　幸江（TANAKA　Yukie）
二松学舎大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：30445720

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：